

# 厳しい時代に 立ち向かうために



松山義則  
総長

卒業のときをお迎えになりました。およろこびを申しあげます。

勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟という人びとは幕末の三舟とよばれ、ともどもに能筆の有名な書家でありました。三人に共通するところは幕臣であり、慶喜に近くつかえました。ことに江戸開城のとき協力して江戸の混乱を避け、新しい時代を開くために力をつくしました。しかし、その人たちはそれぞれ個性的であり、ことに泥舟はその名のごとく、海舟、鉄舟とも異なり、明治政府に仕官せず、書画の世界に身をうつし、いわば隠遁の生活をすごしました。これに対して海舟はのち参議、海軍卿、鉄舟もまた明治天皇の侍従として

時代を荷う人となりました。人間には普遍性があり、時代や文化の影響を色濃く受けるものではありませんが、また人間が本来それでいて、個性的であることを疑うことはできません。

このところ、青少年の常軌を逸した凶悪事件が続発しています。不特定の人々を監禁殺害し、さらに子どもや老人を無残な死に至らしめるという、残虐で凄惨な虐殺、殺人を楽しむような事件の報道もありました。また政界や財界、あるいは学校、病院、社会のあらゆる場所に、不正やおどし、いじめ、殺人などを生じました。このような世情に対して、正義、良心、秩序、教育などの重要性が強調され、道徳や倫理の高揚、そして法律の整備の声が高まることとなりました。人間がこの社会を安定した住処すまひかとし、平和と繁栄とを実現するための当然の声というべきでありましょう。

政権が交代するごとに、政治や経済の安定発展とともに、教育改革が叫ばれ教育立国の樹立のために、いままでも中教審、臨時教育審議会、あるいは現在の国民教育会議などが教育の政策、制度、内容の改善を行ってきました。古くには教育勅語、国民教育など、そのときどきの国や民族、あるいは時代思想のもとで教育は誘導され、後世から批判をうけることもありました。

人類は古くからその進化と歴史をかさねて、人類の営む集団、社会のなかに、慣習やしきたり、法律、道徳や倫理を築き上げてきました。それはその人類の安全と繁栄のために大切なことでありました。しかも人類はその知性と徳性のゆえに、さらに高い精神の世界に生き、科学、学問、芸術の道をきり開いてきました。物質や自然のもつ世界の法則性を知り、その科学技術の深化発展を追い、また社会のもつ力動性や秩序性、さらに、芸術や思想の広がりや深さを追求してきたと言えます。

人びとの社会はその成立の昔から争いの場所でありました。強者が弱者を支配する仕組みが社会を構成していました。人間はその知性や徳性の衣を優美に用い、真理をさえ相対化して支配の実現に利用しています。

こうして社会は輻輳し、それを構成する個々の人間の心はさらに複雑化しています。このような人間社会に育った人のなかに、正義や良心は自分の側に必ずあり、それに照らして不正や邪心は他人にあると批難罵倒し、外罰的にものごとを考え、悪の原因を他者に起因し帰属すると思考する人びともいます。また逆に、すべての失敗や悪の原因を自己に求め、自罰的に、自分に原因を帰属させる人びともみられます。このような多様な社会、複雑な人間の心が多元的のからみあい、個々の奔放なイメージ世界を生み、おそろしいドグマやオカルト思想とその集団化さえ生じています。この反省に立つてわれわれはものごとを素直にとらえ、そして自己愛ではない真実の自己の立脚点を、労力と忍耐とをもって堅持していかねばならないと思います。

遠藤周作氏の小説に戦時中、アメリカの若い兵士を生きたまま解剖し、人間の生理機序の解明に役立てようとした、生体解剖に従事した大学の教授たち、またその肝臓を試食した軍人たちをテーマにした作品があります。まことに残忍無道、非人間的な事件でありました。この作品のなかの人物をして、善人と悪人、聖者の人間と悪魔的人間、強者と弱者といった特性に二分し、光と闇といった構図をえがきながら、それに終わることなく、この二元的次元がひとりの人のなかに重なり合う生々しい人間を探ろうとしています。

一人の若い医者に、「俺もお前もこんな時代にこんな医学部にいたから捕虜を解剖しただけや。俺たちを罰する連中から同じ立場におかれたら、どうなったかわからんぜ。世間の罰など、まずまず、そんなもんや」と語らせています。また別の作品の中で「人間は恐怖を越えるために何かに酔う。死を克えるために主義に酔う」「人間は信じられねえ。人間は自己の苦痛の前にはやはり、すべての人類への友情、信義をも裏切る弱い、もろい存在」と書いています。これは弱者である存在者の特性と位置づけられます。人間はすべてこの存在現実面に直面しています。人間の思いと考え方をとらえ、その心理を探求し、それが持つ論理性と情念性を心理小説のなかに端的に見ることができましよう。また、その人間のおかれた社会的状況、社会的緊張の

なかで人間の営みをとらえようとするときには社会小説が書かれます。さらに人間の思いや考えを無意識のもつ原動力によると解釈することもできません。しかし、遠藤周作氏が願っているように、心理、社会、無意識の層で終わるのではなく、人間がもつ弱者の存在現実をなんとかしてでも超えようとするとき、われわれは魂の問題に直面することになると思います。弱い人間、弱虫が強く生きたいという念願と可能性は、人間の心や無意識、社会の課題ではなく、この魂のなかに潜んでいるのでしょう。

同志社の創立者、新島襄先生は明治の初期にこのことに深く思いを向けられた人でありました。良心を手腕に運用する人物、良心の全身に充滿する人物の養成を念願しましたが、その良心は、自己の考える良心を他者におしつけ、自己のもつ正義を主張することではなく、神の前であつて神とともに思い、意志し、そして行為する、自らを超えて与えられる神に通じる良心でありました。神の前にあるとき、人間は自らが弱者であるという存在現実に立たされています。そしてこれに乗る越えるには、人間の側からの勇氣も、忍耐も、努力も無力でありましょう。新島先生は魂の存在を追求し、弱虫を強い人として立たしめるために、人それぞれの個性的な自発性のなかでの求道の歩みを願いました。

先にのべましたように、幕末三舟の一人、泥舟の生き方にわたくしは魅力を感じています。その号が弱く沈みゆく泥の舟であることに、泥舟の洒脱な思いを見ることができません。人類は、これからも知性や徳性をさえ自己愛のために利用して、強者が弱者を圧倒する体制を維持しつづけると思います。しかしいつの時代にも、人間は自己の有限性の存在現実に気づくことによつて、真正の人間のありようを見ることがあります。新島先生の願いにもそれがありません。これから厳しい社会に旅立たれる卒業生のみなさんが真実の強さに生き、それぞれの人生を地の塩、世の光として歩まれるよう願ひ、ご幸福を心から祈ります。

卒業生に  
贈る  
言葉

# 優れた学問性と 豊かな人間性



八田英二  
大学長

今春、同志社大学から新世紀初の学士の学位をお受けになる卒業生の皆様、そして修士ならびに博士の学位を授与される大学院修士の皆様に、同志社大学長として心からお祝い申しあげます。おめでとうございます。これまでの皆様の勉学、研究活動に対して深く敬意を表したいと思います。これまでの学問に対する情熱と真実を究めようとする不断の努力が、皆様それぞれのお名前が刻まれた学位記となって実を結んだわけです。皆様は二十世紀に学び、二十一世紀に飛躍される記念すべき同志社大学の卒業生です。

現在、わが国には六百校を超える大学がそれぞれ独自の教育活動を展開しています。そのうち七割は建学

の精神を高く掲げ、教育事業を展開している私立大学です。皆様が二十世紀から二十一世紀にかけて勉学、研究に打ち込まれた同志社大学は、長い歴史と輝かしい伝統を誇るわが国屈指の私立総合大学として、教育、研究活動を展開しています。これまでに世に送り出した卒業生は二十万人を優に上回り、各人が国の内外を問わず、多くの分野で若き日に培った同志社精神を高く掲げ、日夜活躍されています。

ご承知のように、同志社は本年創立百二十六年目を迎えました。米国から帰国された新島襄先生が同志社英学校を創立されたのは明治八年十一月二十九日でした。この日、二人の教師と六人の生徒による祈祷により同志社は教育活動を開始しました。崇高な建学の精神と教育理念に基づく私立学校が明治の世に産声をあげたのです。新島先生の追い求められた教育事業は十九世紀から二十世紀、そして二十一世紀へと、ここ同志社大学で連綿と受け継がれています。いまや同志社大学は六学部、八大学院研究科を擁し、比類なき高等教育機関としての評価を得るまでに発展しています。

皆様が学ばれたここ同志社大学は、三つの教育理念を掲げています。自由主義、キリスト教主義、国際主義です。建学の精神のもと、同志社大学は教育事業を通して、わが国の近代社会の形成に大きく寄与してまいりました。今後とも同志社大学は、この役割をわが国の教育界で率先して果たしていかなければなりません。同志社大学の教育事業に対する信念は「良心ノ全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ」という良心碑に刻まれた文言に込められています。時代を問わず、良心碑は同志社教育の原点です。

今日、社会は技術革新、IT革命など、科学技術万能の空気に満ち溢れています。政府は二十一世紀の国策を科学技術創造立国と位置付けています。「知の融合」や「知の再構築」が提案され、さまざまな分野で新たな局面の展開が予想されています。このような時代が要請するものは「知の創造」であることはいうまでもありません。しかしそれ以上に大事なことは、このような「知」を支配する人間の英知です。大学教育は

「学問性」と「人間性」という二つの次元からなるといわれています。これら二者をあたかも車の両輪として、私たちの人間社会は均衡ある発展を遂げてまいります。二十一世紀という時代が求める人物は、まさしく「良心を手腕に運用する人物」という同志社教育が養成を目指すところと一致することは大いに誇りとするところだと思います。

同志社教育の芽生えは明治八年十一月二十九日ですが、その種はそれを遡る一年前、アメリカのパーマント州ラットランドのグレイス教会で蒔かれたといえます。明治七年十月九日のことでした。新島先生は日本への帰国を前にされ、この教会で開かれたアメリカン・ボードの第六十五回年次大会で、記念すべき演説をされました。新島先生はこの日のために意気込んで長い原稿を準備されました。ところが壇上では、記憶された文章が言葉にならず、しばらくの沈黙の後、用意されたものとは違った演説を始められました。日本の地にキリスト教主義に基づく大学を設立したいこと、大学設立のための資金援助をお願いしたいこと、寄付を得るまでは壇上を離れないという強い決意を披露されました。デイヴィス宣教師の記述によりますと「私はキリスト教主義の大学設立のため、その資金なしには日本に帰ることができません。それを得るまでこの演壇の前に立たせていただきます」という新島先生の言葉が記録されています。このような演説に感銘を受け、次から次へと寄付の申し出があり、大学設立のための寄付金額は五千ドルにも上りました。同志社教育の種は、東洋の日本という国から来た新島先生の熱意に打たれた善意の人々によって見守られ、芽を出したといっても過言ではありません。

ところで新島先生はグレイス教会の出来事をめぐり、とりわけ二人の人物に触れておられます。ひとりとは、多額の寄付に感謝をして演壇を降りようとしたそのとき、一人の農夫が歩み寄ってまいりました。彼は二ドルの寄付を先生に渡しました。農夫によりますと、二ドルは帰路の汽車賃だったので、老いたとはい

え、徒歩で帰宅できるとのこと、日本での大学設立の一助になれば、これほどの喜びはないと涙ながらに語りました。新島先生にとっても同志社にとっても、終生忘れることのできない善意の寄付です。もうひとり、グレイス教会から先生が帰路につかれたときのことでした。ある婦人が先生を呼び止めました。あまりにも金額が些少で会場では渡せなかったとの言葉を添えて、二ドルを差し出しました。この二人の人物に出会った先生の感動は推し量っても余りあるところです。キリスト教主義大学の設立に対する人々の温かい善意に見守られて同志社教育は芽を出し、成長してまいりました。このような出来事を思い浮かべるたび、私たち教職員は私学同志社の同志社たる所以は人物育成という教育事業による社会還元にあることを再確認しています。

これから社会に船出される皆様には、同志社教育の原点を常に見失わず、ここ同志社大学で培われた「学ぶ心」と「新島精神」を高く掲げ、これからも弛まず自己研鑽に励まれることを願って止みません。

結びに当たり、学部卒業生ならびに大学院修了生の皆様の行く末に大いなる期待を寄せて私の贈る言葉とさせていただきます。

「自分の人生、自分で作る」、  
「自分の人生、他人と作る」



大橋寿美子  
女子大学長

きれいな春の日になりました。晴れて巣立ちの日を迎えられた卒業生の皆様、おめでとうございます。また、ご家族の皆様、ご列席いただき、ありがとうございます。

さて、ご卒業にあたり、あなた方にお話できるこの最後の機会に二つのメッセージを贈りたいと思います。一つは「自分の人生、自分で作る」、もう一つは「自分の人生、他人と作る」というものです。矛盾しているようですが、そうではありません。両方なのです。

まず、「自分の人生、自分で作る」とは、自主・自立を主張するためによく言われる言葉です。他人に頼ら

ず、流されず、積極的に自分の人生に責任をもって生きよう、という意味です。でも、よく考えてみると、実はこれはそう簡単なことではありません。自分の人生を自分の思うとおりに作れると考えるのは、傲慢な、思いあがったことなかもしれません。人間の意志の無力さと虚しさを主張する思想は昔から多様に姿を変えて、述べられてきました。

古代ギリシャ悲劇の有名なソフォクレスの「エディプス王」を例に取りましょう。「お前は父を殺し、母と結婚するだろう」という神託を告げられたエディプス王は、その恐るべき予言の実現を避けようと親の家を出ますが、その努力はすべて裏目に出て、予言どおり実の父を殺し、実の母と結婚する恐ろしい罪を犯すという宿命を避けることはできません。それは人間の努力で変えることのできない運命なのです。ここでは人間の意志は無力です。こういう考えはギリシャ悲劇だけではありません。古代ローマでも、アラビアンナイトの世界でもそうでした。また、中国や現代日本でさえ、易や占いが影響力を残しているのはご存知の通りです。ここでは人生は神秘な力で支配されていて、自分の人生、自分で作る、とはいえそうにもありません。

そんな宿命論など古いと一蹴して、正反対に科学的な姿勢を取ろうとすると、また別の困難があります。人間はどこまで物質によって、たとえばDNAによって、支配されているのでしょうか。レアリズム文学は人間を社会環境によって支配されるものと考え、自然主義文学は人間を生理学や遺伝学によって説明できるものとして描きました。アルコール中毒者で犯罪者の子供をこれこれの状況で育てると、これこれしかじかの人間になる、というわけです。このように極端な人間実験論までいかずとも、現在、たとえば、非行少年を問題にするとき、その家庭環境、学校環境のありかたに原因を捜し求めようとするのはごく普通にみられることです。でも、親が悪くて環境が悪いから、子供が悪くならざるを得ない、となれば、人間の自由意志のかかわれない必然によって人生が左右されることになり、これも、科学的装いをまとった決定論、つま

り新しい宿命論と言えそうです。

「自分の人生、自分で作る」という、平凡なメッセージは、このように古代の宿命論と現代の科学的決定論との両方にはさまれて、必ずしも簡単な主張ではないのですが、これであきらめてしまつては情けないと思いませんか。人間の自由意志と主体的努力で人生を変えられるという希望と信念をもつてこそ、教育も、そして育児も、意味をもちますし、生きる喜びがあると思うのです。自分の人生、自分で作りましょう。

次に、今日お伝えしたい二つ目のメッセージ「自分の人生、他人と作る」についてお話ししましょう。自分の人生を自分の意志で自由に作れる、という前提に立てば、ありたい自分の姿、理想的な生き方を捜し求めそれを実現したくなります。でも、自分らしい理想の姿とはどういう自分なのでしょう。よく「自分探し」と言われます。「自分らしく自然に」とも言われます。本当に自分らしい自分、ほんものの自分など、あるのでしょうか。近代的自我意識が発達してから、「本物の自分」のテーマはしばしば文学でも取り上げられてきました。自己への誠実を追求しすぎた挙句の悲劇、自我の分裂、分身、二重人格など、さまざまな視点から語られてきました。人間とはいったい何なのでしょう。

フランスの思想家サルトルは「人間の本質はない」と言いました。彼はペーパーナイフと人間とを比べ、ペーパーナイフはその使用目的にそつてつくられたものだから、その目的に添つた本質が存在に先行するが、人間には目的の意味も無く、まず生まれてくる、したがつて、存在が本質に先行する、といいます。この発想を女性論に適用したのがボーヴォアールで、そこから彼女は「人は女に生まれえない、女になるのだ」と有名な言葉を残しました。人間の本質が存在せず、目的が存在しないなら、私たちはどちらを向き、何を目指して生きていけばよいのでしょうか。自由に生きよ、というのは恐ろしいことです。私たちは現に置かれていく状況の束縛があるからこそ、それに従つて、あるいは、それに逆らつて生き方を考えることができるので

はないでしょうか。つまり人間は真空状態のような自由の中にいるのではなく、まったくの白紙では理想的な自分を作ることもできません。サルトルはまた、石ころは即自存在で、人間は対自存在だ、とも言いました。石ころは誰が何と言おうとも、厳然としてそれ自体として存在しているけれども、人間はそうではなく、自己に対しても、他者に対しても、意識する主体であり、意識された客体として分裂しつつ存在するものだ、というのです。

具体的な話にもしましょう。親の期待に応えて、必死で優等生を演じてきた良い子が、突然、耐えられなくなつて、不登校になるという話はよく聞きます。「あるべき自分」と「あるがままの自分」、あるいは、「努力する自分」と「自然体の自分」の分裂でしょう。大人でも京都人の腹黒、という言葉もあります。「表」と「裏」、あるいは「建前」と「本音」の分裂です。どちらが正しい、どちらが良いと言っているのではありません。人間が生きて行くには、一人だけの純粋な姿はあり得ない、人間とは他者との関係においてその時に異なる自分を作っていくものだ、そしてその総体が自分なのだ、と言いたいのです。無理なく同化、協調できる関係からは、温かくしなやかな自分の面が、他方、対立し反撥する関係からは、厳しく鍛えられた自分の面ができるでしょう。多様な人間関係の総和があなたという一人の人間になるのでしょうか。ついでに付け加えると、あなたが他人と自分を作るとき、相手もあなたで自分を作っていることも忘れないでください。人間はお互いに作りあうものですから。

これから社会に出られるあなた方は今までとは違った多くの経験をされることと思います。多くの経験を積み、その経験が厳しければいつそう、あなたは多くの面からなる豊かで陰影にとんだ人間になるはずです。今後の全ての試練が耀いたあなたを作る機会になりますようにと願います。「自分の人生、自分で作る」。「自分の人生、他人と作る」。お幸せを祈ります。